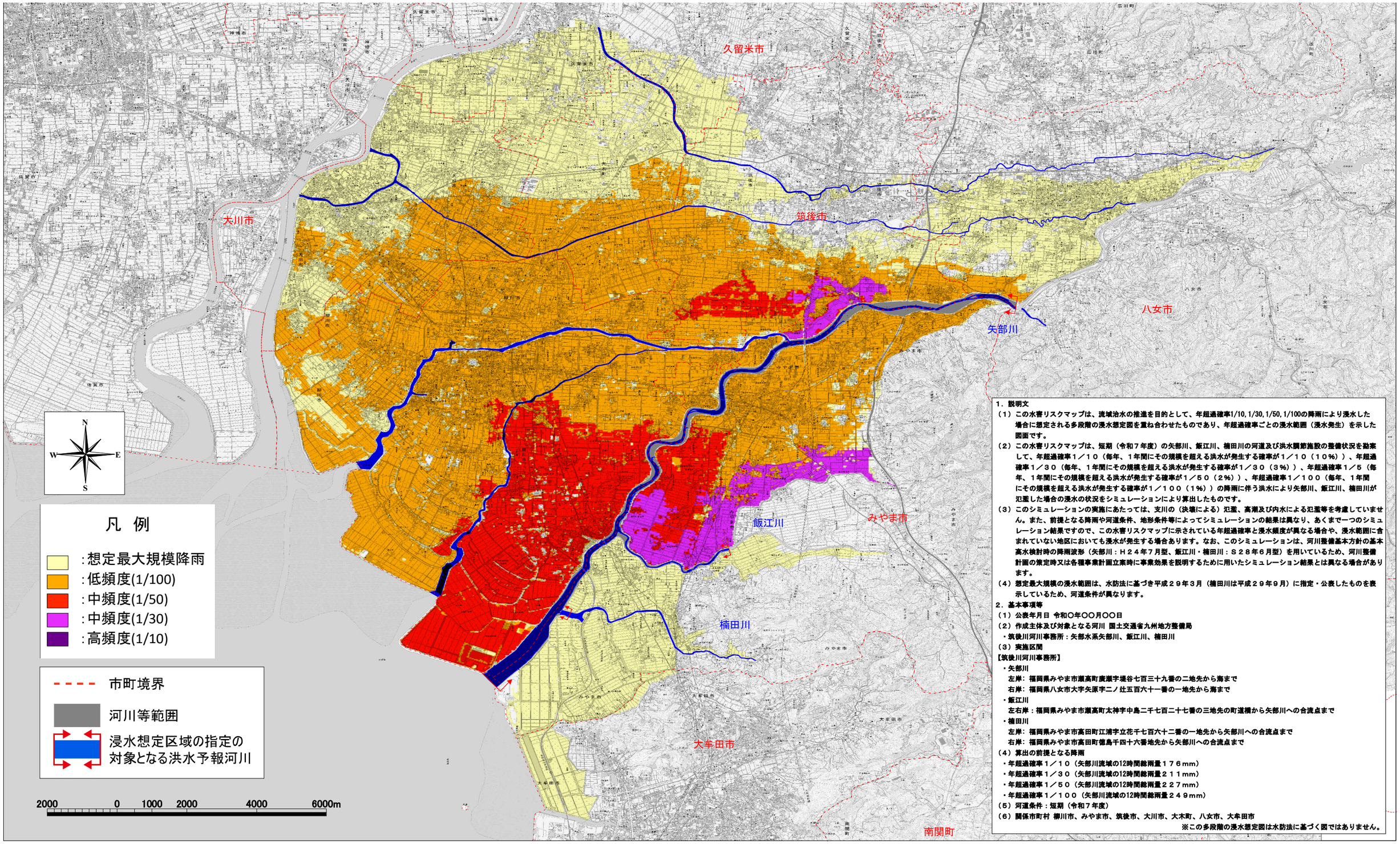
矢部川水系　国管理河川からの氾濫を想定した水害リスクマップ
【短期河道】

浸水が想定される範囲を表示



１．説明文

（１）この水害リスクマップは、流域治水の推進を目的として、年超過確率1/10, 1/30, 1/50, 1/100の降雨により浸水した場合に想定される多段階の浸水想定図を重ね合わせたものであり、年超過確率ごとの浸水範囲（浸水発生）を示した図面です。

（２）この水害リスクマップは、短期（令和７年度）の矢部川、飯江川、楠田川の河道及び洪水調節施設の整備状況を勘案して、年超過確率１／１０（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１０（１０％））、年超過確率１／３０（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／３０（３％））、年超過確率１／５（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／５０（２％））、年超過確率１／１００（毎年、１年間にその規模を超える洪水が発生する確率が１／１００（１％））の降雨に伴う洪水により矢部川、飯江川、楠田川が氾濫した場合の浸水の状況をシミュレーションにより算出したものです。

（３）このシミュレーションの実施にあたっては、支川の（決壊による）氾濫、高潮及び内水による氾濫等を考慮していません。また、前提となる降雨や河道条件、地形条件等によってシミュレーションの結果は異なり、あくまで一つのシミュレーション結果ですので、この水害リスクマップに示されている年超過確率と浸水範囲に含まれていない地区においても浸水が発生する場合あります。なお、このシミュレーションは、河川整備基本方針の基本高水検討時の降雨波形（矢部川：Ｈ２４年７月型、飯江川・楠田川：Ｓ２８年６月型）を用いているため、河川整備計画の策定時又は各種事業計画立案時に事業効果を説明するために用いたシミュレーション結果とは異なる場合があります。

（４）想定最大規模の浸水範囲は、水防法に基づき平成２９年３月（楠田川は平成２９年９月）に指定・公表したものを表示しているため、河道条件が異なります。

２．基本事項等

（１）公表年月日 令和〇年〇〇月〇〇日

（２）作成主体及び対象となる河川 国土交通省九州地方整備局

・筑後川河川事務所：矢部水系矢部川、飯江川、楠田川

（３）実施区間

【筑後川河川事務所】

・矢部川

左岸：福岡県みやま市瀬高町廣瀬字堤谷七百三十九番の二地先から海まで

右岸：福岡県八女市大字矢原字二ノ辻五百六十一番の一地先から海まで

・飯江川

左右岸：福岡県みやま市瀬高町太神字中島二千七百二十七番の三地先の町道橋から矢部川への合流点まで

・楠田川

左岸：福岡県みやま市高田町江浦字立花千七百六十二番の一地先から矢部川への合流点まで

右岸：福岡県みやま市高田町徳島千四十六番地先から矢部川への合流点まで

（４）算出の前提となる降雨

・年超過確率１／１０（矢部川流域の12時間総雨量１７６mm）

・年超過確率１／３０（矢部川流域の12時間総雨量２１１mm）

・年超過確率１／５０（矢部川流域の12時間総雨量２２７mm）

・年超過確率１／１００（矢部川流域の12時間総雨量２４９mm）

（５）河道条件：短期（令和７年度）

（６）関係市町村 柳川市、みやま市、筑後市、大川市、大木町、八女市、大牟田市

※この多段階の浸水想定図は水防法に基づく図ではありません。

国土地理院の電子地形図25000『大牟田』『関町』『山鹿』『七ツ家』『柳川』『野町』『高井川』『佐賀南部』『羽犬塚』『八女』『黒木』『佐賀北部』『久留米西部』『久留米』『草野』『広滝』『中原』『鳥栖』『田主丸』を掲載